

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

北海道札幌市

学校名

札幌市立真駒内曙小学校

学校のURL

<http://www.makomanaiakebono-e.sapporo-c.ed.jp/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】第1学年2学級、第2学年2学級、第3学年2学級、第4学年1学級、
第5学年2学級、第6学年2学級

【特別支援学級】2学級 【合計】13学級

児童生徒数

【全児童数】282人（平成23年12月16日現在）

（内訳：1年生49人、2年生50人、3年生59人、4年生34人、5年生45人、6年生42人、特別支援学級3人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【人権教育に関する目標】

豊かな人間性のはぐくみ

人権教育にかかる取組の全体概要

本校における人権教育の推進の目的

本校は平成21年度から23年度までの3年間、「人権教育総合推進地域事業」の研究委託を受けることになった。これを機会に、人権尊重の視点から本校で実践されている活動について見つめ直すとともに、児童に人権について意識させ、尊重する実践的な態度を身に付けさせていきたいと考える。

研究主題

研究主題「豊かな人間性のはぐくみ」（真駒内緑小学校との共通テーマ）

研究主題設定の理由

児童が、学校内や地域において、様々な人々との交流や体験的活動を通して、一人一人が互いにかけてあげのない人間として尊重し合い、偏見や差別をなくし、支え合い励まし合う温かい人間関係の中で、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進するため。

3. 特色ある実践事例の内容

【心と体の学習】で育てたい力

自分の命や体を大切にできる
 わかったことを自分の生活で生かそうとする

体や性の仕組みについて科学的にわかる
 他の命や体も大切にできる

「心と体」の学習

からだ

いのち

いきる

1年【自分の体に関心をもつステップ】

『からだウォッチング
 ~見つめてごらん
 あなたの手~』
 『食べ物ウォッチング
 ~給食室を探検しよう~』

『あさがおをそだてよう』
 『安心・自信・自由ってなん
 だろう
 ~「子どもへの暴力防止プロ
 グラム」ワークショップ~』

『ともだちたくさん』
 『たのしいことたくさん』
 『冬の遊びを工夫しよう』
 『こんないい友達がいるよ』

2年【自分と周りの人とのかかわりに関心をもつステップ】

『健康診断は自分の体を知る
 チャンス』
 『からだウォッチング
 ~見つめてみよう私の目~』
 『食べ物ウォッチング
 ~野菜のチカラ!~』

『やさいを育てよう』
 『生き物をかおう』

『なかよくなりたいね』
 『あしたへジャンプ』
 『こんないい友達がいるよ』

3年【命や体について科学的に学ぶステップ】

『健康診断は自分の体を知る
 チャンス』
 『からだウォッチング
 ~は・八・歯でハッピー! 歯の話~』
 『毎日の生活と健康』
 『食べ物ウォッチング
 ~やっぱ牛乳でしょ!~』

『赤ちゃん誕生』

『一緒に遊ぼうゲーム』

4年【社会の一員として自分を考えるステップ】

『健康診断は自分の体を知るチャンス』
 『からだウォッチング~遊んで動いて
 元気な体!~』
 『食べ物ウォッチング~
 おすすめ朝食メニューを作ろう~』

『1/2成人式』

『気づかないすてきな自分を
 大切に』

5年【心と体の変化を学ぶステップ】

『健康診断は自分の体を知る
 チャンス』 『けがの防止』
 『からだウォッチング
 ~二次性徴と私たち~』
 『食べ物ウォッチング
 ~食品表示を調べてみよう~』

『安心・自信・自由って
 なんだろう
 ~「子どもへの暴力防止プロ
 グラム」ワークショップ~』
 『生命の神秘』

『ねえあなたのこと教えて』
 『心の健康』

6年【集団の中の自分の在り方について学ぶステップ】

『健康診断は自分の体を知る
 チャンス』
 『からだウォッチング
 ~たっぷり睡眠
 ぐんぐん成長~』
 『病気の予防』 『食べ物ウォッチング
 ~健康なおやつ選び~』

『自分探しの旅』

『自分で変えられるものは何?
 ~ハートビーイング
 してみよう~』

『心と体の学習』について

本校では、子どもたちの心と体が健やかに育つことを願い、健康教育「心と体の学習」を教育課程に位置付けて実践している。子どもたちに今、身に付けてもらいたいスキルは何か、そして今より先を見通した際に、伝えておきたいスキルは何かを考慮し、指導計画を毎年見直し編成している。

内容としては、「基本的な生活習慣に関すること」「食に関する学習」、そして、「命の学習」「コミュニケーションスキル学習」といった幅広い分野にわたり、学習を進めている。これらの学習を6年間通して、計画的にスキルを積み重ねることにより、『命の尊さ、生き方』を学んでいる。

総合的な学習の時間	道徳	特別活動・学校行事
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 関連 心と体 からだ 分野との </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 《生活科》 1・2年合同 1年・幼合同 みんなでいこう(学校 探検) みんなで楽しもう もうすぐ2年生 </div> </div>	『はしのうえの おおかみ』 『すっきりなか なおり』 など	1年生を迎える会 かるがも名刺交換会
	『ともだち 大すき』 『みんなちがっ てみんないい』 など	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> かる が も っ こ 活 動 (縦 割 り 活 動) </div> 運動会：全校競技 『かるがもが行く!』 かるがも遠足 (秋の遠足)
『心的心声を伝えよう』 ・手話体験を通して、聴 覚障害について考え る。	『真駒内の自然』 など	学習発表会 『感想カード交換』
『心の目で見つめよう』 ・点字の体験や、アイマ スクをして校内を巡 り、視覚障害について 考える。 (国語科との関連)	『真駒内の歴史を 調べよう』 など	委員会主催の集会 取組み ・あいさつ運動 ・学校生活の 見直し ・大縄大会 ・読み語り ・やさしいことば づかい
『心のバリアフリー』 ・車いす体験や、介助体 験を通して思いやりの 心を育てる。	『見つめてみよう 私たちのまち』 (図画工作科『すて きな町真駒内』と の関連) 『活動報告会 をしよう』 など	クラブ発表会 宇宙飛行士が やってくる! (いつまでも ふるさと)
『心のユニバーサル デザイン』 ・地域や校内のユニバー サルデザインについて 考える。 (国語科との関連)	『健康 プログラム』 『自分探しの旅』 など	かるがも 似顔絵集会 (6年生ありがとう) 6年生を送る会

4. 実践事例の実績、実施による効果

1. 本校における人権教育の推進の目的

本校は平成 21 年度から 23 年度までの 3 年間、「人権教育総合推進地域事業」の研究委託を受けることになった。これを機会に、人権尊重の視点から本校で実践されている活動について見つめ直すとともに、児童に人権について意識させ、尊重する実践的な態度を身に付けさせていきたいと考える。

2. 研究主題及び研究主題設定の理由

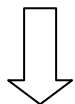
(1) 研究主題「豊かな人間性のはぐくみ」(真駒内緑小学校との共通テーマ)

(2) 研究主題設定の理由

児童が、学校内や地域において、様々な人々との交流や体験的活動を通して、一人一人が互いにかけてえのない人間として尊重し合い、偏見や差別をなくし、支え合い励まし合う温かい人間関係のなかで、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進するため。

3. 3か年の研究の大きな計画

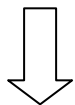
1 年目(平成 21 年度).....**本校の取組を人権の視点から見つめ直す。**



つかむ

- ・本校の取組を、人権教育の面から考える。
- ・外部から学ぶ(講師の招へい、視察)
- ・学校評価から振り返る。

2 年目(平成 22 年度).....**人権教育を進め、取組を問う。**



見直す

- ・教育実践を通して、成果や課題をつかむ。
- ・人権教育の再編
- ・外部から学ぶ(視察)

3 年目(平成 23 年度).....**人権教育を深める。**

深める

- ・外部から学ぶ(講師の招へい、視察)
- ・教育課程の中の人権教育の位置付けを再考する。

4. 研究を進めるに当たっての視点

視点 1 子どもの「伝え合い」「認め合い」を生み出す教材化

尊重し合える人間関係を築くために

自分を尊重し、他者を尊重する。一人一人が互いにかけてえのない人間として尊重し合い、偏見や差別をなくし、支え合い励まし合う温かい人間関係を築いていくためには、まず、自分を知ることを出発点とし、自分がどれだけ大事な存在であるのかを意識させることから取り組みたい。さらに、他者を理解しようという思いをもたせ、自分と同じように尊重していこうとする意識を育てていきたい。

「伝え合い」「認め合い」を意識した教材化

そのためにも、自分を理解したり、互いを認め合ったりすることのできる学びを構成していく。内容によっては、自分の思いを「伝え合う」場を設定することも必要になると考える。また、共通点や相違点について理解し、互いに「認め合う」ことのできるような教材化も考えていく。特に、自分や他者の大切さを実感させるには、実際に体験したり、思いを交流したりすることが効果的だと考える。単に、知識を習得するだけにとどまらず、児童が実感の伴った学習を構成していきたい。

《 これまでの実践から 》

いのちのふしぎ
～赤ちゃん誕生～
(3年・総合的な学
習の時間)

この題材では、まず、赤ちゃんが生まれるまでの成長過程をしっかりととらえさせることで、命の不思議さや素晴らしさを感じ取らせるようにした。そして、自分たちが多くの人の支えがあって生まれてきたことを実感し、さらに他の人も同じように大切に育てられたことを知る。そこから、自分の命だけではなく周りの人たちの命も大切に作る心が生まれることを期待して設定した題材である。

3000gの赤ちゃん人形を作り、妊娠中のお母さんがどのような環境で生活を送っていたのかを疑似体験したり、助産師さんの話を聞いたりして、赤ちゃんが生まれるまでの大変さや期待を感じられるように学習を進めた。また、家族からの手紙を受け取り、自分が大切に思われていることを再確認した。「命」の大切さについて考えることのできた学習だった。

ねえ、あなたのこと
教えて
(5年・道徳)

質問をすることを通して、前向きに人と関わると、楽しさや新しい発見があることを感じ取り、新しい学級でも積極的に友達と関わっていこうとする気持ちをもたせるのがこの題材のねらいである。

まず、手押し相撲などのアイスブレイキングをして、子どもたちの気持ちを和ませるとともに、実際に友達とふれあう場を設けた。

その後、「ねえ、あなたのこと教えて」ゲームを通し、ふだんあまり話をしない子と話をしたり、聞いたことがない事を聞いてみたりして、子どもたちは新たな発見を得た様子だった。「ふだん静かな子がたくさん話してくれて嬉しかった。」「質問することで、その人とのことがもっとわかる。」などの感想もあった。

視点2 子どもの「伝え合い」「認め合い」を支える教師の関わり

効果的な学習展開
と教師の関わり

教師が子どもたちにどのように関わり、学習をどのように展開するかを吟味することで、その教材の学習効果を高め、実感を伴ったものにしていくことができると考える。

体験活動は、表面的な浅い関わりでは、面白いとか、大変だとかといった感覚的な感想しか児童がもち得ないこともある。その体験にどのような学習価値があり、子どもに何を感じとって欲しいのかが伝わらなければ、効果の薄いものにしかならないだろう。また、感想をシェアリングする場面においても、感想を述べるだけでは、個人個人の発表会にしかない。互いを知り、認めようとする意識は、関心をもち、自分の思いと比べて考えようとする意識がなければ、「伝え合い」「認め合い」にはならない。教材の学習効果を高められるような教師の関わりについて視点を置く。

《 これまでの実践から 》

こげた
ホットケーキ
(4年・道徳)

この題材では、子どもの気付きや心の変化を引き出すために、自作の資料を用意したり、メッセージビデオを見せたりした。

メッセージビデオは、写真と短い言葉を添えたスライドショーと、音楽で構成されている。写真は主に学級の子どもたちのものを利用し、言葉についても、児

童アンケートから抽出した「うれしかった言葉」を中心とした。学習の終盤に見せることで、学習したことを整理したり、学習によって芽生えた心情を膨らませたりすることができるように考えたが、教師が学習のまとめをするのではなく、自分たちの言葉で伝え合い、共有化することができた。

この学習を通し、「友達を呼び捨てにしない」など、普段の生活の中からも実践していくことができることを子どもに意識付けられた。また、教材化については、資料の生かし方で、より「本音」を引き出し、テーマについて考える学習が展開できそうだという手掛かりが見つかった。

作ろう！ぼく・わたしの健康プログラム
ム
(6年体育・総合)

体育と総合的な学習の時間を用いて、長期的なスパンで取り組んだ学習である。「睡眠」「食事」「運動」の生活習慣を整えることが大切であることを理解し、健康課題を見つけて実践していけるようにすることをねらいとした。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為が健康を損なう原因となることも理解し、誘いを断る際の適切な態度を身に付けることにも取り組んだ。

この学習では、養護教諭やスポーツクラブのインストラクターの協力を得ながら、小グループでの調べ学習、発表会、相互評価などを行った。他学年への発表の機会を設定し、健康について自分なりの考えをしっかりとめさせ、分かりやすく伝えることを意識させて取り組むことができた。

5. 実践事例についての評価

《平成21年度のまとめ 平成22年度の取組み》

《平成21年度の成果》

平成21年度は、取組の1年目という事で、人権教育とはどんな取組なのか、そして本校の取組を人権教育の視点から見つめ直し、人権教育の意識を高めるということを目標に実践に取り組んできた。

「人権教育総合推進地域事業」を受け、道徳の研修会本校における人権教育推進計画についての研修会を行い、人権教育についての共通理解を図った。また、他校や人権に関わる施設への派遣を通して学習し、全校への報告を行ったり、文部科学省の「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」なども取り上げ、人権教育についての理解を深めたりしたという点においては大きな成果があったとらえている。

また、「道徳」や「心と体」を中心に、人権教育を意識した実践にも取り組むことができた。構成的グループエンカウンター(SGE)は、自己理解や他者理解に直接的にかかわる学習ができるため、学級づくりだけではなく日常の実践でも有効な方法の一つだと考えられる。また、SGEの枠組みにとらわれることなく、自分や友達のよさに目を向けたり、言葉かけなどのロールプレイに取り組んだりする中から学ぶこともあった。

このように、これまで取り組んできた実践に「人権教育」のフィルターを通すことで、より強く人権教育を意識し、その学習の価値を押さえながら取り組めた点が成果だと言える。

《平成21年度の課題と、平成22年度取り組むこと》

平成21年度は、これまでの実践を「人権教育」を意識して取り組むとすることで、決して新たな取組みではないが、指導者が「人権教育」を意識することで、大きな学習効果が期待できるという点では有効であった。

これは、私たち指導者側の意識を高めたという点で、「人権教育総合推進地域事業」の第一歩だととら

えている。次のステップとして、学習の主体者である子どもたち自身に「人権」を意識させること、これまでの実践を見直すこと、そして「地域事業」という趣旨のもと、地域や家庭との連携を図り、地域全体で子どもを育てる意識を高めることが必要になると考えた。

さらに、平成 22 年度は、子ども自身に人権を意識させることとして、「人権」という言葉自体を投げかけるのではなく、人との関わりを通して相手を思いやり、自分に自信をもつことができるような取組を考え、実践したりすることを意識した。学習の中では、仲間の考えを認めたり、自分の考えと仲間の考えをつなげて課題解決したりしていけるようにすることを大事にするということを、また、普段の生活の中では、言葉づかいを意識させようと考えた。

実践の見直しについては、これまで蓄積してきた資料や指導案を見直して実践することや、教育実践発表会（平成 22 年 9 月 8 日）で授業提案を通して、校外の先生方や保護者（保護者アンケート）の意見をいただき、再構築を図るようにした。

地域との連携については、授業公開や学校説明会、お便り、ホームページなどを通して発信し、協力して取り組んでいくことと同時に、5 年生の取組として、地域と一体となった人権教育を構築し、実践することとした。これは、総合的な学習の時間だけではなく、道徳など領域をまたいだ、大きな題材となっている。学習としての価値を検証する材料になるとともに、これからの学校と家庭、地域の連携を考えるステップになったとも考えている。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

札幌市立真駒内曙小学校

学校全体をあげて交流活動や体験活動による人権教育をすすめている。とくに、「心と体の学習」に力点を置き、「からだ」「いのち」「いきる」をキーワードに各学年の実践例を系統的に構成し、実践している点に注目したい。その中で、学年の発達を考慮した具体的なステップを示し、児童の成長に即した人権に関する知的理解とその感覚を指導することを意図している。また、その教育活動の中心的な場면을総合的な学習の時間や道徳、特別活動などに求め、〈いつ・どこで・どのように〉指導するのかを明確にしている。

研究のプロセスにおいても、人権教育の具体的な内容である「伝え合い」「認め合い」の意義を〈教材化〉と〈教師のかかわり〉を通して追究している。実践例として示された3～6年の各事例紹介は、全国の各学校においても十分参考に資するものである。日常的な授業実践が可能であり、自校の実態に即した新たな人権教育の推進課題を見出す機会となろう。